

## 万博の電源に「原子力」明記

大阪日日 27 日「潮騒」から。これ以上の問題を抱え込むことはやめてほしい。会場建設費の高騰、タイトな工期、アクセス方法不足など、さまざまな課題を抱える 2025 年大阪・関西万博のことだ。会期中に使用する電源について、日本国際博覧会協会は原子力を活用する方針だという◆

温暖化ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の観点、国の第 6 次エネルギー計画に原子力が含まれていることなどを理由にするが、賛否の意見が鋭く対立する原子力を、わざわざ国際イベントで使うリスクをどう考えているのか◆

万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、目標の一つは持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献だ。確かに原発は温室効果ガスを出さない。しかし、安全性の問題は解決しておらず、「トイレなきマンション」と言われる使用済み核燃料の処分もめどが立たない。東日本大震災による東京電力福島第 1 原発の事故もいまだに収束が見えない。とても持続可能と言える状況ではないだろう◆

万博のテーマや目標に共感し、参加を決意したり応援したりしている人の中にも、原発への拒否反応を示す人は少なくない◆

大阪・関西が一丸となる必要がある時機に、自ら水を差し、分断をあおる行為ではないか。

ネットで見て腹を立てたが、「潮騒」の指摘に同感だ。万博は経済産業省が所管なので、原発回帰を強める岸田政権の意向に沿った措置であろう。表題記事が「sankei.com11 月 15 日」に掲載されていたので抜粋して紹介する。

2025 年大阪・関西万博会場の省エネルギー計画の全容が 15 日、明らかになった。「カーボンニュートラル」を実現するため、開催期間中に使用する電源に原子力を明記。周囲の海水熱を利用した空調を利用するなど環境へ負荷を減らし、持続可能な未来社会を目指す。

万博を運営する万博協会の省エネ計画では、パビリオンなど場内施設の電源は太陽光などの再生可能エネルギーや、発電時に二酸化炭素を排出しないアンモニアや水素のグリーンエネルギーを導入した「ゼロエミッション火力」に加え、原子力で構成することを掲げた。原子力の活用に関し、万博協会幹部は「温暖化ガス排出量を 2050 年までに実質ゼロにする政府目標の達成に向け、多様な電源の使用を推奨する観点から盛り込んだ」と述べ、電力の供給力や脱炭素社会に資することも重視した。



(2022 年 11 月 29 日)